

日々好日

(令和七年十一月発行)



一見
阿字

五逆
消滅

好日

真言
得果

即身
成佛

夕刻六時の鐘を撞くため玄関を出ると、民家の屋根の上に中秋の名月。その翌日の十六夜の月は満月でより大きく海面から手の届きそうなところにあった。それは厳かで美しく神々しいお月さまでした。

佛教では満月は欠けたところがなく円満でその光は清浄なので仏心、また浄菩提心を表すとされています。

真言宗の両界曼荼羅のうち金剛界曼荼羅は智徳円満として諸尊は総て満月輪の中に坐されています。また、心中の浄菩提心の所在を感知する月輪観という観法もあります。

ともあれ、円満・潔白・清浄・独尊・清涼などの満月の徳を思えば、観月は自らの生き様を顧みるまたとない機縁ともなりましょう。

年間でも一番過ごしやすいこの清涼なる季節である秋十一月六日は当山有縁の独立性易禅師、十日(旧暦九月二十一日)は吉川広家公、更に二十五日は亡父俊澄の祥月命日である。

人間は誰も欠けたることのない円満無碍なる存在たりえませんが、その心の中に掛け替えない尊い佛心、つまり菩提心を備えている存在であると教えられていることを知らねばなりません。

故人を追憶するにふさわしい季節、亡き人を偲びつつ己が人生を確かなものにする足掛かりとしたい。

弘法大師のお言葉

「凡人のこころは合蓮華の如く、佛心は満月の如し」

(秘蔵寶鑑第十七)



金剛界曼荼羅
(弥勒菩薩)

更に車で境内に通行できるように参道を拡幅舗装もしました。それでも参道は急カーブの連続で本堂建築の資材の搬入は困難を極めたことでしたが、社長は笑って吾れ関せずの体であった。

幾多の困難を克服しての新築は夢のようで、夢なら覚めないで欲しいと思ったことでした。

それは尾津平岩の狭小で荒廃の観音堂を解体して、当山檀信徒と地元観音信者により御堂が新築されたのは、高野山から下山して間もない三十二才の向こう見ずの若僧の仕掛けたものでしたが、弘法大師御誕生千二百年という時が味方しての建立でした。これは郷ヶ崎の地で被災して隠忍自重気味の歳月を過ぎた父も初めて胸の張れる出来事であったに違いありません。

万徳院の本堂新築はその二十二年後のことでしたが、それは弘法大師御入定千五百年御遠忌の、大師信仰の熱き余韻が未だ冷めやらぬ中でのことでした。住職は夫婦で修行大師像を報恩感謝して建立しています。その大師像に篤信の信徒によって供花が欠くことなく続けられているのは、この山寺にも大師信仰の火が消えることなく灯っていることで、先代住職も兜率天の雲間から見て安堵し喜んでいることでしょう。

本堂新築三十年の今、万徳院創建の成り行きなどを探ってみたい。ご承知のように万徳院が現在地に建立されたのは吉川広家公が出雲の月山富田城主から岩国へ転封された慶長八年のこととされる。(以下、「吉川元長の教養―戦国武将の人間像―河合正治著より」)

その創建は広家公の兄の元長公(毛利元就の二男元春の長男)です。元長公は永禄八年、十八才での富田城攻撃が初陣。天正十五年九州出陣中に四十才で病没するまで、安芸の国山県郡火の山城主であった典型的な戦国末期の武将である。

「元長の武士としての内面生活やその動向を知ることができるのは、吉川家の菩提寺である大朝新庄の西禅寺の住職が元長よりの自筆の書状百六十余通を丹念に保存して今日に伝えてくれていることによると」

元長の禅宗への深い関心にもかかわらず、彼の晩年には佛教のどの宗派にもとらわれない諸宗兼学の新寺院を建立しようとしていることは注目しなければならぬ。

このような気持が表面にでてきたのは、かれが真言宗に熱意を示すようになってからで、天正十二年六月に仁和寺の仁助法親王から弘法大師筆と称する法華経を贈られて、真言の宗旨に執心するように励まされたことがある。(吉川家文書追加一号)からだと言われる。

しかし、かれは真言一宗の寺ではなく諸宗兼学の「十宗大望之寺」の建立がかれの願望であったとされる。

それは、武人としての我等が如き罪深き者は一佛ではなく数多の仏の加勢がなくては罪は滅しないと言うほどのものであった。

諸宗兼学のはずの寺院が真言宗の寺院となったのはこのような理由があり、元長自身も新寺院には表向きは本尊に弘法大師を奉安、内に釈迦・大日・弥陀の三尊を安置すると云っている」

このような元長公の心情と経緯があつて真言宗御室派の寺院万徳院が誕生したということになります。云うまでもなく寺名は元長公の、万徳院殿前礼部中翁空山大居士という戒名の院号によるものであることがわかります。

元長公の新寺建立にもかかわらず公の意図した本尊諸佛が伝わらず、五大尊明王の主尊不動明王は室町時代、吉川家第十一代経基公大願主として造刻された尊像なのです。(経基公は応仁の乱で細川勝元に味方し、歴戦の勲功により安芸の国山県郡内の数地の賞賜があつた。)

経基公の時代に吉川家の菩提寺の一つに自現山福光寺

あとがき

境内ではコスモスが咲いて秋の風情を楽しんでいます。岩国基地での艦載機の着艦訓練は騒音の苦情をあびつつも強行され終了しましたが、その岩国でもロマンス詐欺、投資詐欺などで高額の金銭等をだましとられる事件が続いています。注意するようにと耳にタコができるほどに喚起されているのにどうして被害者がでるのでしょうか。

自民党は結党いらい初めて女性の総裁を選出した。右寄りの思想の持主で知られる高市早苗氏である。党員数で他の候補を圧倒し、その勢いで総理の指名を受けるのかと思いきや、足踏み状態が続いていましたが、公明党が連立を離脱することを表明しました。

政治信条の違いによるもので、船出をしてからも国の内外の諸問題で暗礁に乗り上げるのではないかと心配になります。

新総理ならぬ総裁の時点で株価は異常な高騰をみせ円安がすすみ輸入品の値上がりが懸念されています。これ以上の値上がりは御免蒙りたい。

万徳院の法要を終えれば秋の行事も終となりますが、一年の経過することの速さを痛感するものこのこればかりは如何ともし難いことである。

発行者

高野真言宗

宝池山 龍門寺

吉岡 光昭



秘仏なる

象頭人身の

抱擁像

二重三重の

円型厨子に

恐るべき

浴油祈願の

痕跡も

商売繁盛

夫婦円満



岩国市通津3634番地3 〒740-0044

高野山真言宗

宝池山 龍門寺 発行

電話 岩国(0827)38-4611